

別寒辺牛

べかんべうし

2009年1月発行
NO.18

ラムサール条約登録湿地 厚岸湖・別寒辺牛湿原 厚岸水鳥観察館だより



暖冬のせい？ ◆オオハクチョウ、たくさん居残ってます◆

例年と同じ10月12日に初飛来！

オオハクチョウの季節が、いよいよ本番を迎えています。

10月12日に確認した1羽も、12月17日には約6,900羽。10月中旬には既に5,000羽を超えていたことから、1ヶ月以上も5,000羽以上が厚岸湖から別寒辺牛川河口に滞在していることになり、まだまだ居のこりそうな気配です。

過去には平成16年度に同じような傾向がありましたが、このままの暖冬傾向が続けば、それ以来の大規模な居のこりになる可能性が高くなってきました。



暖かい12月！？

確かに今年の秋もおかしな天候でしたが....

本来12月も半ばを過ぎると、水鳥観察館周辺の川の流れが遅い部分は凍ってしまうのです。しかし下旬になっても氷は張ったりとけたりを繰り返すばかりで一向に冬らしくなりません。

水鳥観察館では、日中3回気温を測っています。昨年の12月1日から12月20日までの朝8時30分の平均気温はマイナス3.6℃、午後2時の平均がプラス2.6℃。

今年は、朝の平均がプラス1.9℃、午後の平均がプラス5.7℃。実にそれぞれ5.5℃、3.1℃も差があるのです。

昨年度も少し異常だったのに、輪をかけて暖かいのです。



今年は暖かいぞ！

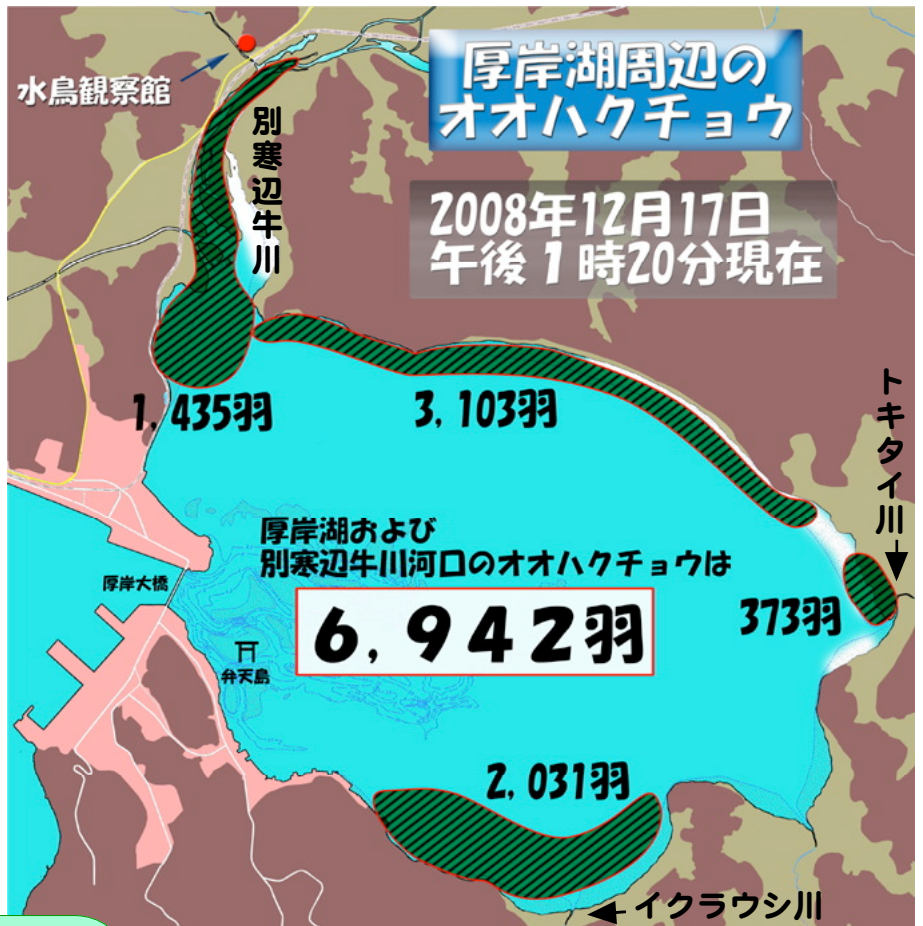
12月の分布

毎年ほぼ同じような傾向なのですが、右図のとおり、オオハクチョウの主食であるアマモが分布しているエリアを中心に集まっています。

今年の特徴は、例年ほとんど分布していないトキタイ川河口あたりに数百羽いることや、イクラウシ川河口（湖の南側）に多く飛来してきていることです。

これから氷が張るに従い、どんどん東北方面へ南下するはずなのですが、今年はそれがいつになることやら。

でもこれだけ湖に残っているのだから、いったん南下が始まると、厚岸の市街地上空を、大編隊飛行するオオハクチョウの群れがたくさん見られるかも！

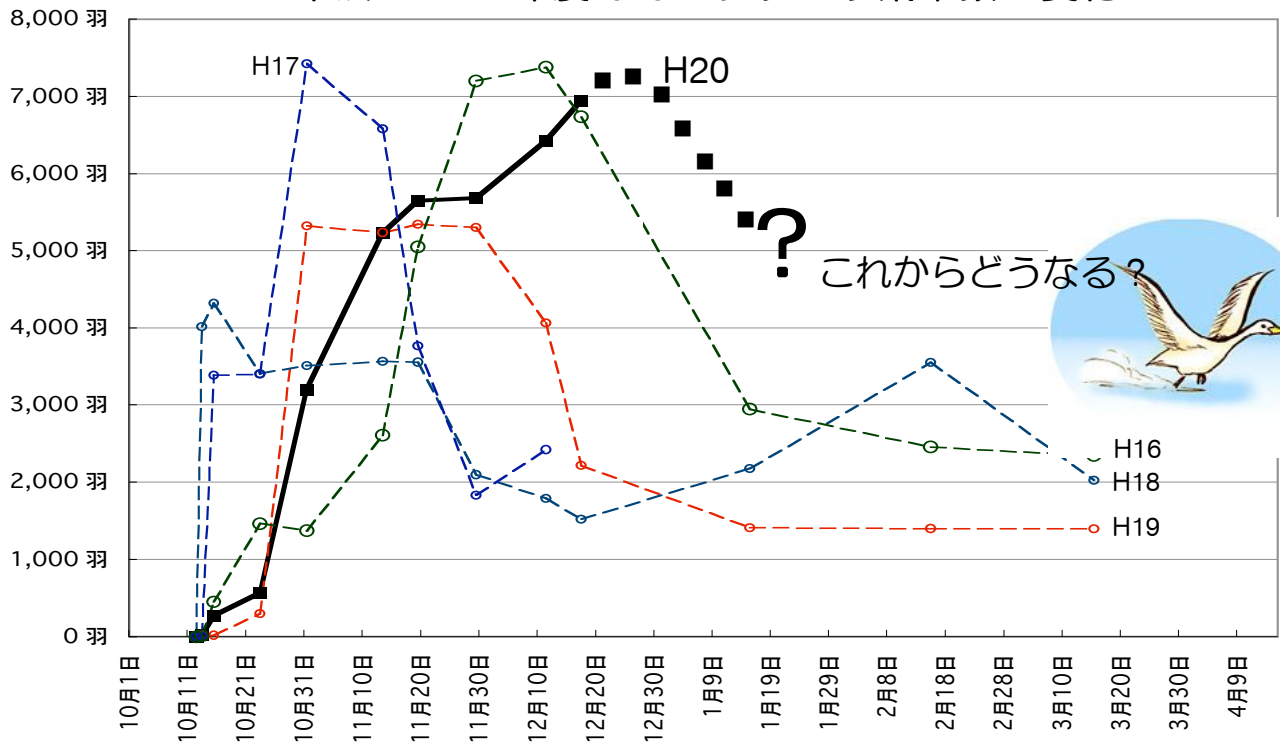


今後の飛来数の変化は？

例年、1月中旬から2月下旬頃まで約1,500から1,800羽ほどが越冬組として残るのですが、今後の氷の面積、天候によっては、もっとたくさんの越冬数になるかもしれません。

いずれにしても、本州ではハクチョウを心待ちにしている人たちもたくさんいますので、例年どおり越冬してもらうためにも早く南下してもらいたいのですが...

平成16～20年度オオハクチョウ飛来数の変化



【カモ類と鳥インフルエンザの関係】

**オオハクチョウが直接の悪者ではありません！
また野鳥から直接人間に感染する可能性は限りなく低いです！**

<カモ科水鳥と鳥インフルエンザ>

カモの仲間で大いものを「ハクチョウ類」、中くらいのを「ガン類」、小型のを「カモ類」と呼んでおり、全て「カモ科」の仲間です。

鳥インフルエンザは、全てのカモ類が保有しており、特に小型カモ類が非常に多くの種類のウイルスを保有しています。

それらウイルスのほとんどが低毒性で、通常は強毒性を示さず、その寄主と共存していて、お互いを殺すことはありません。

しかし、何かのきっかけで他種の生き物に感染し、体内で突然(適応)変異を起こすことがあります。その中でも**発症すると重篤な症状と高い死亡率を示すものを「高病原性鳥インフルエンザ」といいます。**

オオハクチョウは、本来この強毒性になるタイプのウイルスを保有していません。

オオハクチョウは「うつされる側の生き物」です。

<感染：間には家きんの存在>

ニワトリやアヒル、豚といった、いわゆる“**家きん(かきん)**”で「**高病原性鳥インフルエンザ**」が発生した場合、養鶏業、養豚業などニワトリや豚に大量死が起こり、大変な損害が生じる可能性があるうえ、人間への感染リスクも高くなります。

そのため、家きんに感染させてしまうことは避けなければならず、**不要に接触しないようにしなければなりません。**

もちろん、可能性は極めて少ないものの人間への感染も警戒しなくてはなりません。

人の場合、“**感染した弱った個体あるいは死体**”と濃密に直接接触するなどの行為をしない限り、感染の危険性は皆無に等しいと考えられています。

<心がけること>

◎死んでいるカモ、ハクチョウ類などには素手でさわらない！

- ・野生動物の死亡率は元々高く、その原因も様々！
ハクチョウ・カモなどももちろん同じです！
- ・野鳥が死んでいるのを見つけたら、釧路支庁環境生活課、厚岸町役場林政係または水鳥観察館にご連絡ください。

釧路支庁 環境生活課 TEL: 0154-43-9154 (直)

厚岸町役場 林政係 TEL: 0153-52-3131 (代)

厚岸町役場 水鳥観察館 TEL: 0153-52-5988 (直)

◎カモ、ハクチョウ類などに餌付けを行わない！

- ・餌付けをすると水鳥を密集させるため、感染した水鳥がいた場合に一気にその集団に蔓延する恐れが高くなります。
- ・そしてそれらフンなどを靴に付けることによってウイルスを広め、家きんや他の動物へうつしてしまう恐れがあります。

※厚岸町では野鳥への給餌・餌付けに対しては、その種の生態系を崩してしまうという意味で給餌・餌付けを行わないように従前から皆さんにお願いしています。

真冬の野鳥観察会は、水鳥・ワシ・ゴメ・・・たまにアザラシ

12月7日には、御供山展望台から渡りの中継がピークを迎えているオオハクチョウの群れを観察。約6,000羽もの白い塊が湖に点在しているのに一同感激！

といっても高倍率の望遠鏡がないと、その姿は見られないのですが...

いったん街に戻って、引き続きチカラコタンへ。ここでは割と近くでオオハクチョウを観察できます。もちろん厚岸湖では餌付けを行っていないため、車から降りるやいなや、ゾロゾロっと逃げていきますが。



オオハクチョウをはじめ、アマモを主食としているカモ類は多数います。湖岸線ではカサカサに干からびていますが、水中では二つのようにただよっています。



オオハクチョウの主食のアマモ

世界的にも分布が狭まっているこのアマモ。厚岸湖には、このアマモがカモたちにとっては無尽蔵にあるのです。



毎年約1,000羽が越冬するスズガモの群れ

1月の野鳥観察会!!!

ハクチョウやほかのカモを観察・調査しよう!

徐々に氷の面積が大きくなってきて、オオハクチョウもカモも厚岸湖で冬を越すものだけが居のこっているはず。さて、この氷のおかげで、水鳥たちは町中から見やすくなっていますが、1月は水鳥調査を行いながら、厚岸湖岸から、この越冬中の野鳥を観察します。

日時：1月18日(日) 10:00~12:00
会場：厚岸湖湖畔
定員：20人
集合場所：厚岸町役場駐車場

~申込み・問い合わせ~
水鳥観察館 TEL: 52-5988



うまく湖が凍っていれば、ゴマフアザラシが見えるかも!



あっけし みずどり かんさつかん

厚岸水鳥観察館

☎088-1140
北海道厚岸郡厚岸町サンヌシ66番地
TEL (0153)52-5988 FAX (0153)53-2121
URL: <http://www.marimo.or.jp/AWOC/>

